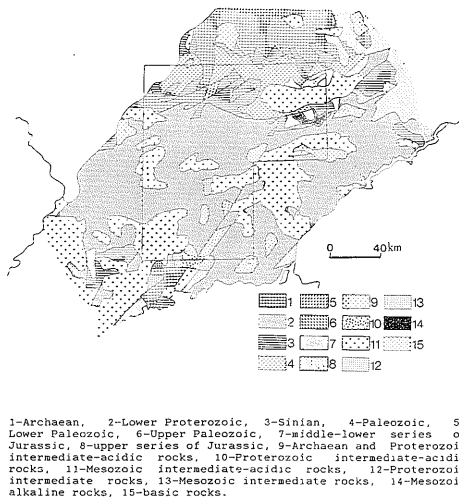
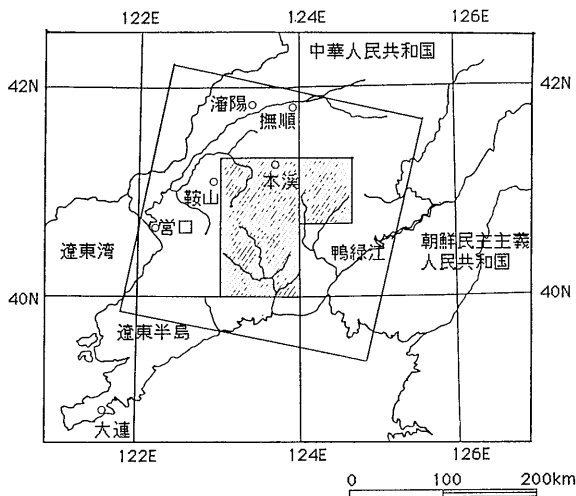


# (表紙の説明) 中華人民共和国遼寧省東部の LANDSAT TM 画像

浦井 稔・佐藤 功(地殻物理部)・山口 靖(地殻熱部)・二宮芳樹(地殻物理部)  
Minoru URAI・Isao SATO・Yasushi YAMAGUCHI・Yoshiki MINOMIYA



第1図 画像の範囲 地名は世界大地図帳(下中 1985)による

第2図 遼寧省東部の地質 Sato et al. (1988)

表紙の画像は 米国の地球観測衛星 LANDSAT がとらえた中華人民共和国遼寧省東部(第1図の傾いた正方形の範囲)の画像である。この画像は一般のカメラで撮影されたものではなく TM(セマテックマップ)と呼ばれる可視-近赤外域のスキヤナでデジタルデータとして記録されたものである。このため 画像の色彩は肉眼で見ると違い 植生は赤色に見える。この画像は第1表に示す4シーンの画像をモザイクして作成されたが 東側の画像が撮影されてから西側の画像が撮影されるまでの間に 地表の状況が変化(降雪が谷部に残ったと推定される)ため 本溪の南部に東西の画像の継ぎ目が見られる。

遼寧省の省都 瀋陽は北京から飛行機で約1時間の距離に位置し 古くから東北地方の政治的 経済的中心として重要な位置を占めてきた。現在の瀋陽は撫順の炭鉱 鞍山の鉄鉱山を控え 東北地方第一の工業都市となっている。撫順炭田は 表土が薄く炭層が非常に厚いことから 大規模な露天掘が行なわれており その様子が画像にも見られる。遼東湾に面する営口では 大規模な塩田が幾何学的広がりを見せている。一方 鴨緑江の南東側の地域はその北西側の地域に比較して赤色が鮮やかである。これは 鴨緑江の南東側の植

第1表 画像作成に使用したシーン

No.	Path	Row	Date
1	118	031	Nov. 1 1984
2	118	032	Nov. 1 1984
3	119	031	Nov. 24 1984
4	119	032	Nov. 24 1984

生が主に松などの針葉樹であるのに対して その北西側の植生は主に広葉樹であるためと推定される。

当地域の地質は 第2図に示すように Archaean, Proterozoic, Paleozoic および Mesozoic の地層から構成されている。現在 地質調査所と中華人民共和国地質鉱産部地質遠感中心は 第1図のカギ形のハッチの地域を対象として LANDSAT 画像を用いた地形・地質構造解析の共同研究を実施している。

## 引用文献

下中 邦彦(1985)世界大地図帳 平凡社 273p.  
Sato, I., Deng, Z., Wang, P., Yamaguchi, Y., Urai, M. and Ninomiya, Y. (1988) Application of TM data to a geologic structure study of the eastern Liaoning Province, China. International Archives of Photogrammetry and Remote Sensing, 27-B10VII, 424-434.